アンテナ歴史保存資料 詳細
登録番号 : 384
登録日 : 2025-7-4　　承認日：　　登録者：中野　雅之
E-Mail :

１．資料の名称、形式
(Japanese) :　マイクロタック
(English) :　MicroTac

２．製作(発明､発表)時期
(Japanese) : 1993 年
(English) :

３．所有者
(Japanese) : KDDI 株式会社
(English) :

４．開発者
(Japanese) : モトローラ株式会社
(English) :

５．保存場所
(Japanese) : KDDI 株式会社
(English) : KDDI Corporation

６．資料の歴史的重要性
(Japanese) :
　1989 年、画期的な端末が上陸したとされる。セルラーグループが、米モトローラ製の「マイクロタック HP-501」を発売した。約 300g と従来機より大幅に軽量で、操作キーの部分だけを折り畳みカバーで覆う、いわゆるフリップ式の携帯電話機である。アンテナは伸ばすまたは縮める伸縮用アンテナで、収納しても利得が 5dB 程度低くなる程度で、他社の 10dB 程度の利得低下と比較して優れていた。

参考）
　1983 年にモトローラのモバイル部門は世界初の商用携帯電話とされる DynaTAC 8000X を開発し、1989 年には当時の日米貿易摩擦により始まった日米協議で北米標準のモトロー

ラ方式（TACS 方式）が認められたことで NTT が独占していた日本の移動電話市場にも参入し、大ヒットした。

1987 年に NTT が携帯電話サービスを開始したのを皮切りに、 1988～1989 年に DDI セルラーや IDO（ともに現在 au by KDDI）が携帯電話市場に参入した。NTT は、この新サービスに伴って携帯電話 1 号機「TZ-802b 型」（重量約 900g）が、 DDI セルラーからは 1989 年にモトローラ製「MicroTAC」が発売された。「TZ-802 型」が家庭用電話機の形状を有しているのに対し、「MicroTAC」は、現在の携帯電話の形状に相似しており、フリップ型が採用されている。これはボタン等を隠した端正な外観と、収納時の誤操作防止、利用時の集音性向上の役割を同時に併せ持つ形状としての解であり、製品の機能美が形状に上手く反映されている。

参照：奥村 和則　　岐阜市立女子短期大学研究紀要第 58 輯（平成 21 年 3 月）

(English) :

７．主要性能

(Japanese) :

【3/8λ ホイップアンテナ】

周波数：860-940MHz

利得：-1dBi (伸長時）、-6dBi(収納時)

(English) :

８．関係論文・文献

(Japanese) :

(English) :

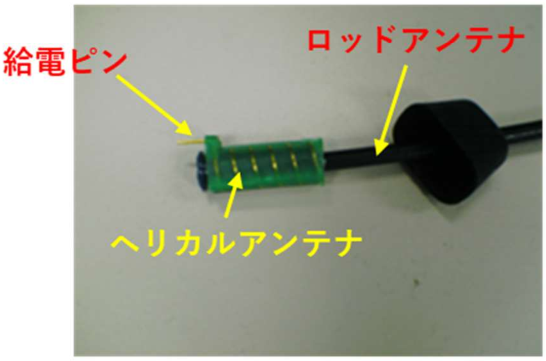
９．関係特許

(Japanese) :

(English) :

写真（構成図）

アンテナ伸張時



アンテナ収納時

キーワード
(Japanese)
3/8λアンテナ、ヘリカルアンテナ、給電ピン、モトローラ

(English)